

明神ヶ岳

佐藤 伸也

- 山行年月日:2021年1月31日
- メンバー:国分勉、大竹幹衛、大竹尚子、外島正明、保科勝人、平田信良、斎藤美和子、杉崎圭洋、増田寿代、佐藤伸也
- コースタイム:冴集落出発 7:30～狭間峠
11:30～山頂 12:30～登山口 14:30

今年はコロナ禍で総会は中止となつたが、例年行っていた登山だけは実施することになった。私にとっては初めての明神ヶ岳登山だ。

小雪模様の中、7時に美里町冴の除雪最終地点の駐車スペースに集合。10名集まると賑やかだ。スノーシューの国分さん以外は全員スキーで7時半に登山を開始する。途中スノーモービル3台に抜かれる。「騒々しい。排気ガスが臭い」と顔をしかめつつも、夏場なら正式な登山口となるスーパー林道との合流地点までの残り1kmに立派なトレースをつけてもらい、時間と体力の節約になった。

平たんな杉林の中を膝上までのラッセルを強いられながら進む。やがて杉林から自然林になり、雪崩そうな斜面を左手に見ながら急斜面をジグザクに登る。数名のパーティーなら諦めていたかもしぬれないが、多人数だと頻繁なトップ交代で効率的に高度を稼ぐことができた。その後傾斜は次第に緩くなり、標高850mの狭間峠に到着したころには4時間が過ぎていた。右に大きく曲がりながら

しばらくは緩やかな登りを続ける。

伊佐須美神社奥の院と鳥居があると聞いていたが、コース取りのせいか見つけることができなかつた。最後の登りは再び傾斜が急になり、ブナ林の中の深雪に悪戦苦闘する。大木の雪の空洞に落ち込んで身動き不能に陥ったり、シールが効かず後退・転倒したりと深い雪の中で七転八倒しながらも、12時30分にはどうにか山頂にたどり着くことができた。曇り空と丈のある樹木に邪魔されて展望には恵まれなかつたものの、雪化粧したブナの林がとても美しかつた。

シールをはずして13時に下山を開始した。深雪がブレーキになりスピードが出ないが、それでも斜面にそれぞれ思い思いのシュプールを描きながら滑降を続けた。登りで警戒した沢に注意を払いながらも一気に通過し、やがて傾斜が緩み林道に出た。ここから2kmの林道も心地よい傾斜で、14時30分には駐車場に戻つた。ちらついていた小雪もいつの間にか止み、青空が見え始めていた。

ここ2～3日で降り積もつた深雪に難儀しながらもみんなでラッセルを協力し合つてどうにか山頂に立つことができ有意義な一日となつた。シーズンは始まつばかり。この豊富な積雪に今季の充実した山スキーを期待しながら帰路に着いた。